

杜の都産業保健会がん発見率(2019年度)

当会がん検診が2021年1月2日

NHK BS1で放映されました！



BS1スペシャル  
『私たちのデジタル医療革命2021』



当会丸岡 伸所長が当会データを用いて胸部AI読影補助装置開発に協力しているところが放映されました！

# がん検診の内容

当会では肺がんは胸部単純X線検査とCT検査、胃がんはバリウム造影検査および内視鏡検査、大腸がんは便の潜血反応検査と大腸内視鏡検査およびCT大腸内視鏡検査、子宮がんは超音波、擦過細胞診検査、乳がんはマンモグラフィや超音波検査およびMRI検査などでがん検診を行っています。

**要精密検査**として外部医療機関に**二次検査**を依頼し、返事を頂いた件数と、当会一番町健診クリニックにて二次検査を行った件数について解析しました。

二次検査は肺ではCTや気管支鏡検査、胃や大腸では内視鏡検査を行い、病理組織検査でがんと判明した例を解析しました。

# 2019年度がん発見率

			肺がん	胃がん		大腸がん	乳腺		子宮がん
				バリウム	内視鏡		マンモグラフィ	超音波	
実施件数	A		140,276	43,203	3,545	60,805	6,129	4,281	8,758
要精検数	B		1,902	687	89	3,525	445	80	125
要精検率( B/A )			1.4%	1.6%	2.5%	5.8%	7.3%	1.9%	1.4%
精検結果判明数	C	総数	746	284	85	874	378	61	44
	D	要精検数中の比率 ( C/B )	39.2%	41.3%	95.5%	24.8%	84.9%	76.3%	35.2%
		(外部医療機関)	560	168	47	728	282	58	32
		(一番町クリニック)	186	116	38	146	96	3	12
がん組織確定	E		14	9	3	16	14	2	0
報告数中癌発見率	F	E/C	1.9%	3.2%	3.5%	1.8%	3.7%	3.3%	0.0%
総受診者中の がん発見率	G	$E/(A \times D/100)$	0.03%	0.05%	0.09%	0.08%	0.27%	0.06%	0.00%

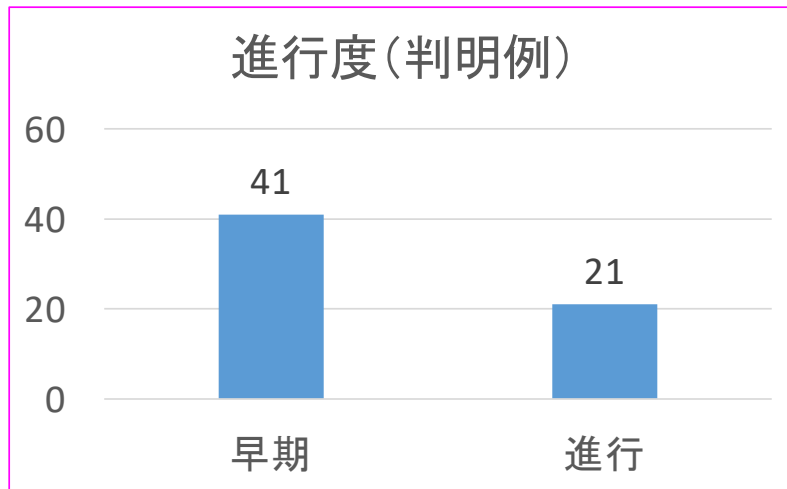
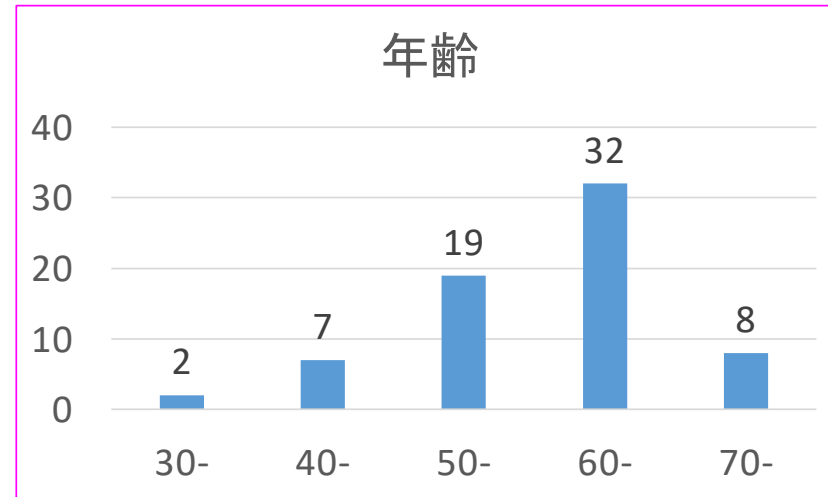
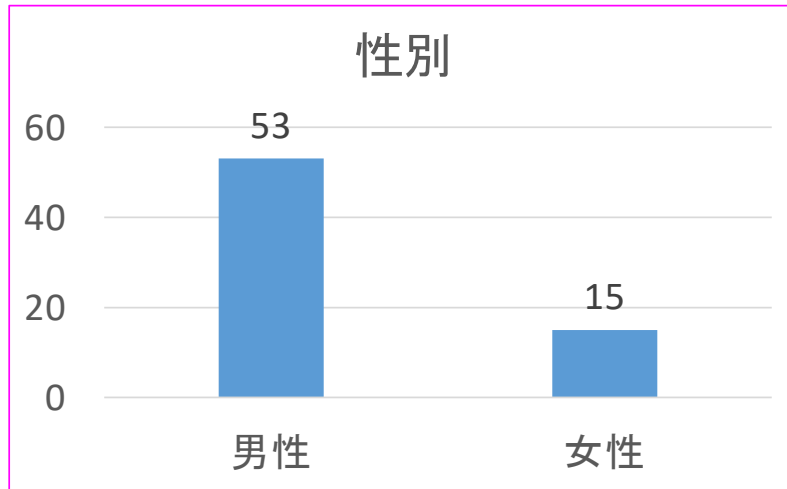
# 結果

- 受診者数は肺14万人、胃4.7万人、大腸6万人、乳腺1万人、子宮0.9万人でした。
- 要精検率は肺1.4%、胃1.7%、大腸5.8%、乳腺5.0%、子宮1.4%でした。
- そのうち最終結果が得られたのは一部を除き、24~42%でした。ほとんどの医院から結果報告は得られているようですので、**半数以上の方が精密検査を受けていない!**と考えられます。
- **肺がん14例、胃がん12例、大腸がん16例、乳癌16例**が発見されました。
- 結果判明率から補正して得られた総受診者中のがん発見率は肺がん0.03%、胃がん0.05%、大腸がん0.08%、乳癌0.27%でした。

## 肺がん胸部単純X線検査(過去年度との比較)

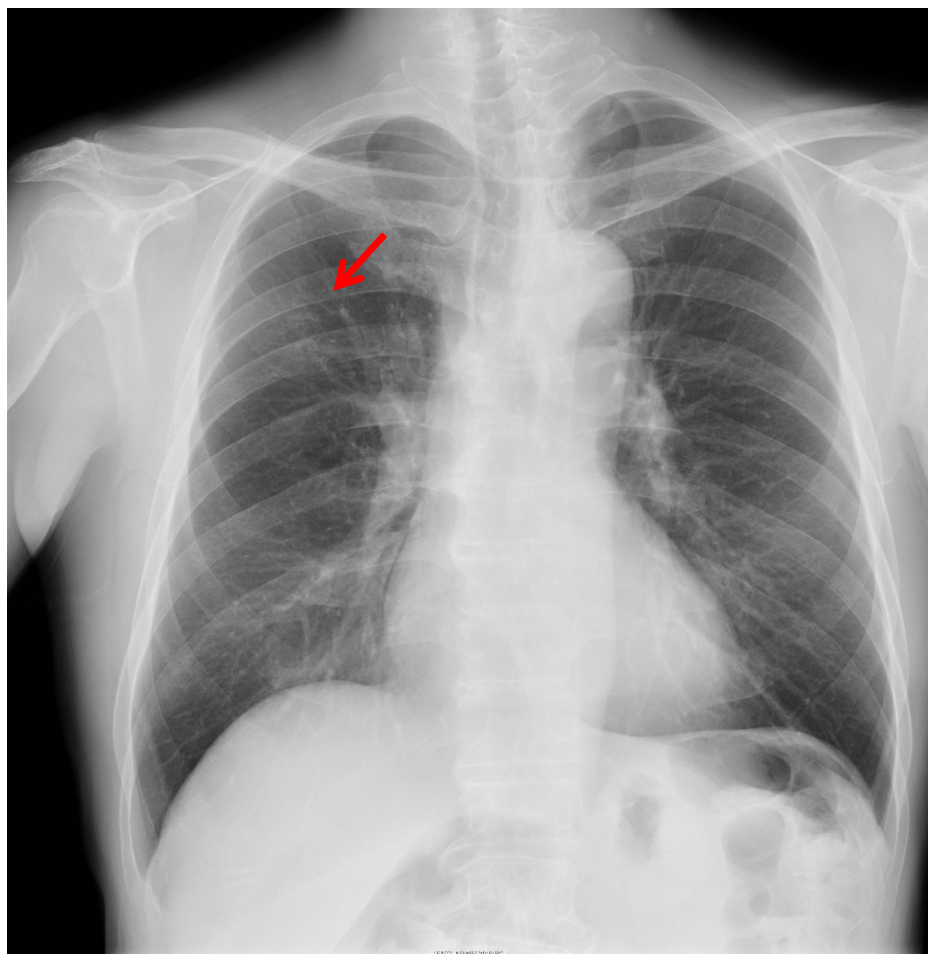
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
総数	129,519	135,875	135,178	135,285	140,276
要精検数	1,044	1,147	1,159	1,308	1,902
要精検率	0.8%	0.8%	0.9%	1.0%	1.4%
結果判明数	421	425	672	573	746
がん確定数	12	11	15	12	14
がん発見率	0.03%	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%

# 肺がん 2015-2019年度データの解析

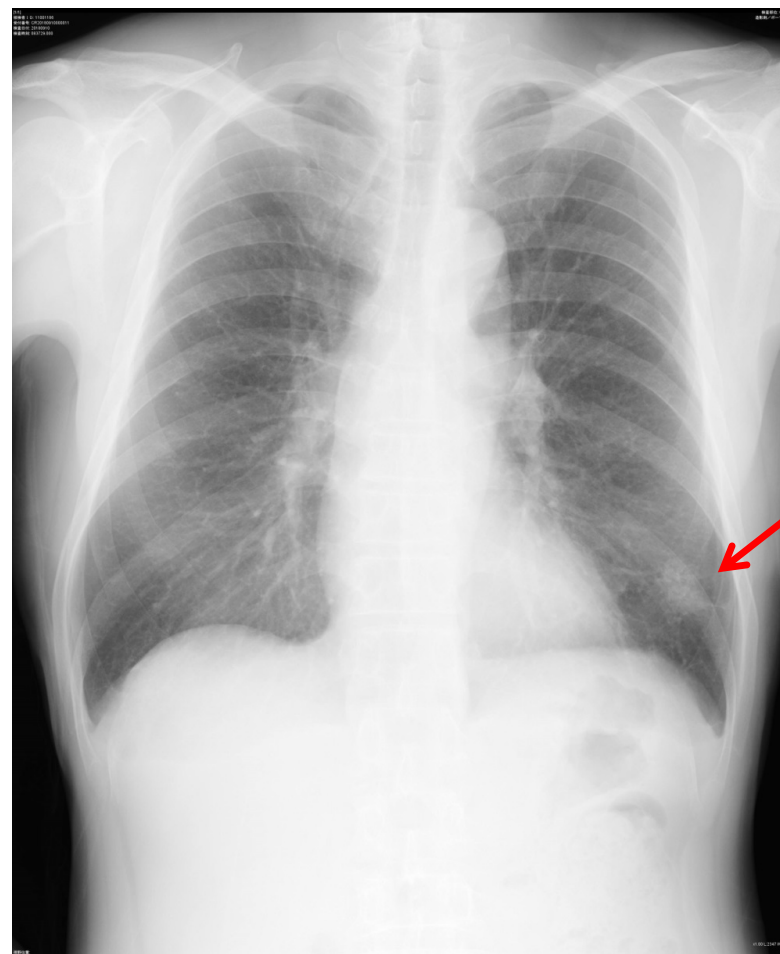


肺がんは男性に多く、**30歳代、40歳代の肺がん**の方もいました。多くが早期癌で発見されていますが、要精検とされたのに病院を受診せず、進行癌で再発見された方もいます。

肺癌症例 69歳男性

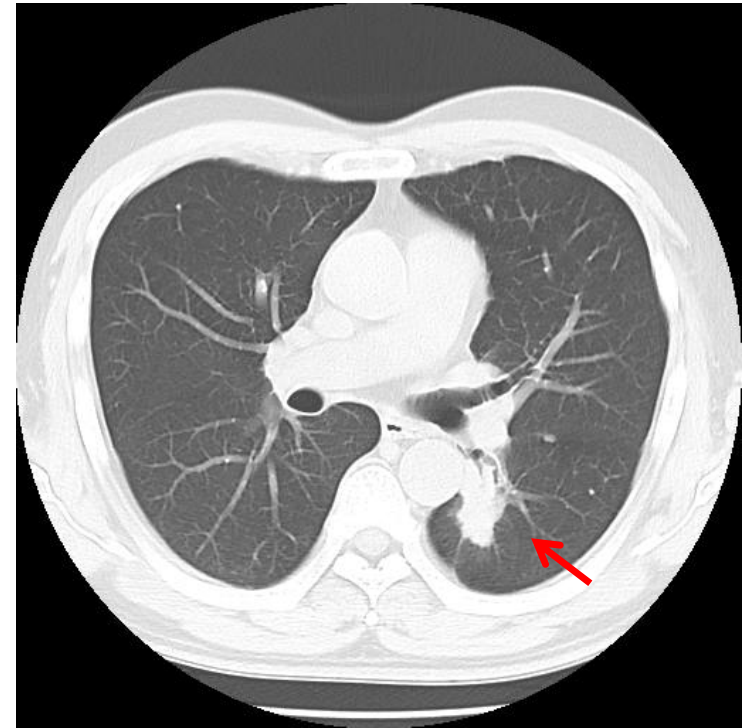
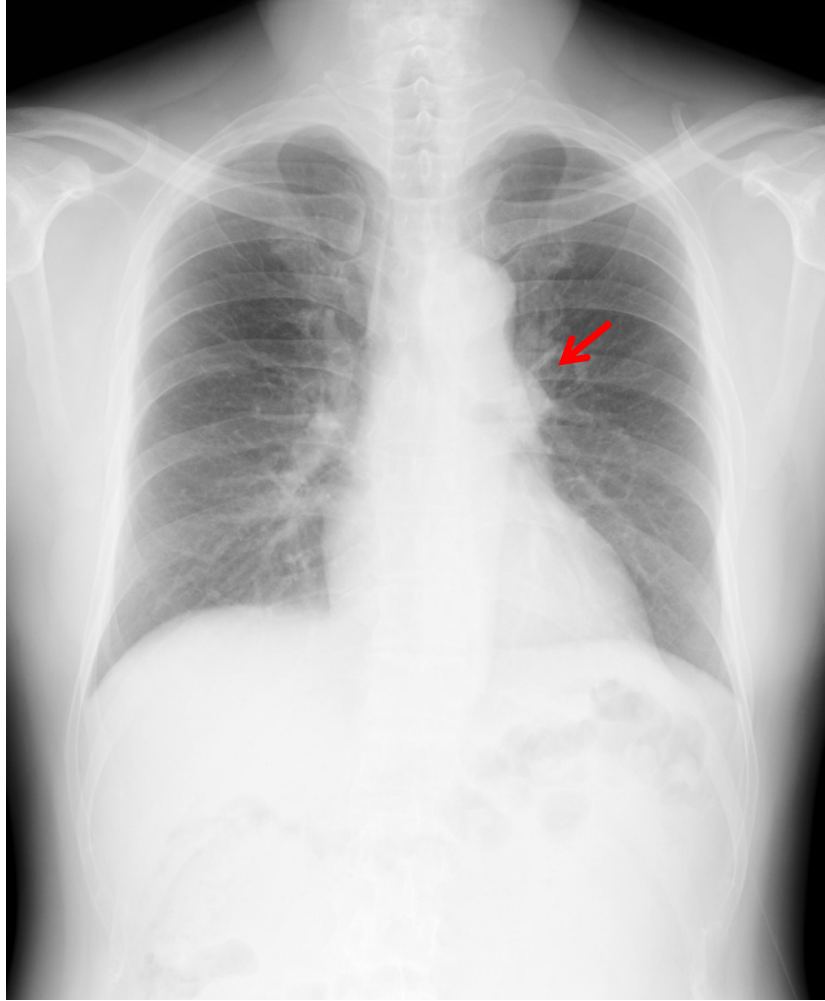


肺癌症例 63歳男性

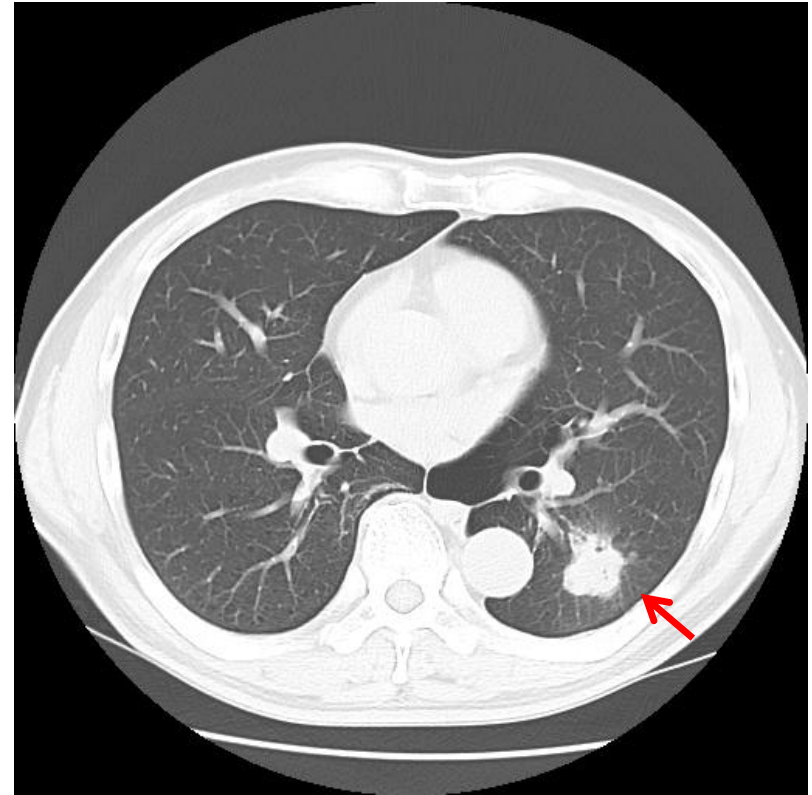
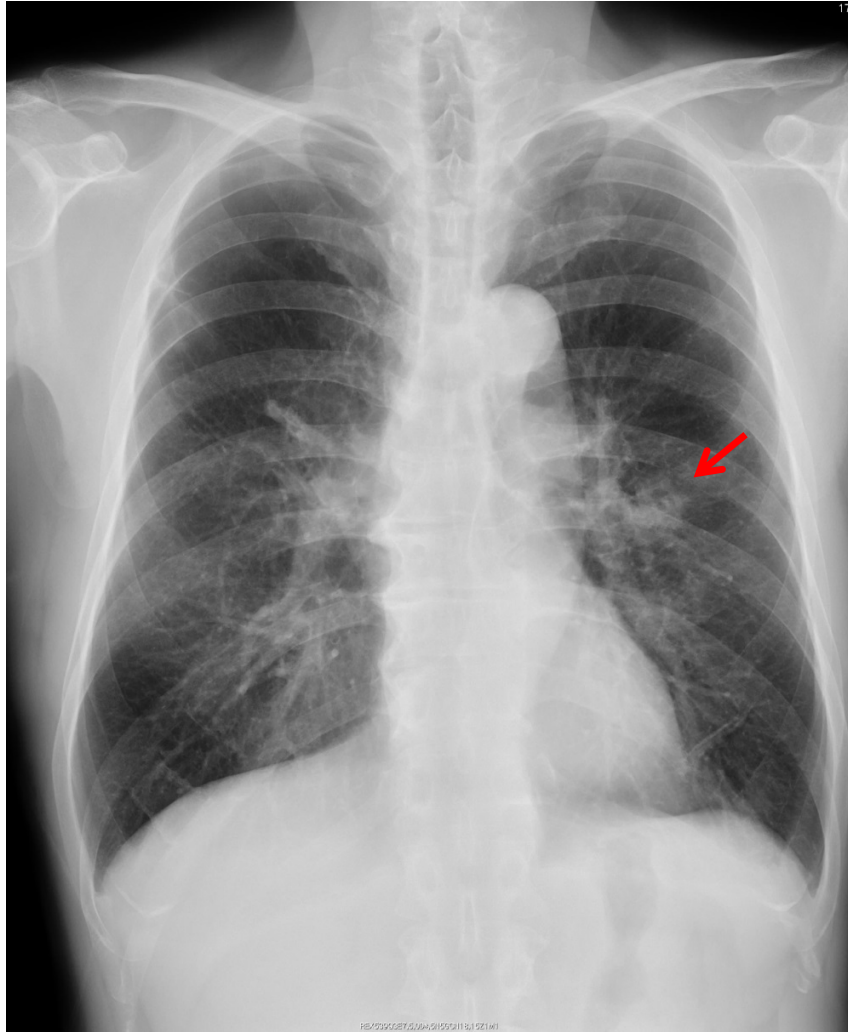




肺癌症例 62歳男性



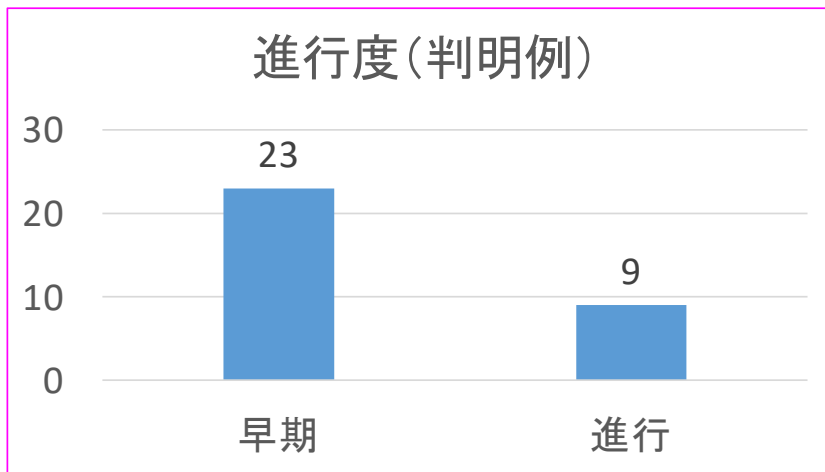
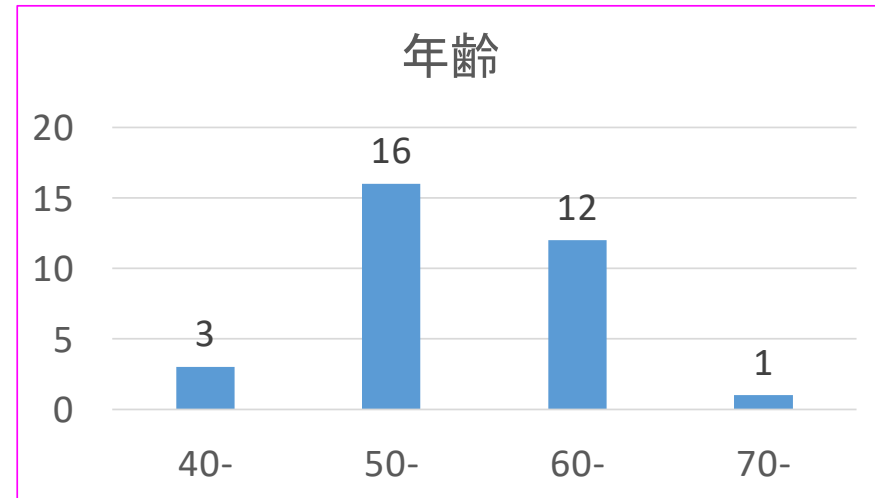
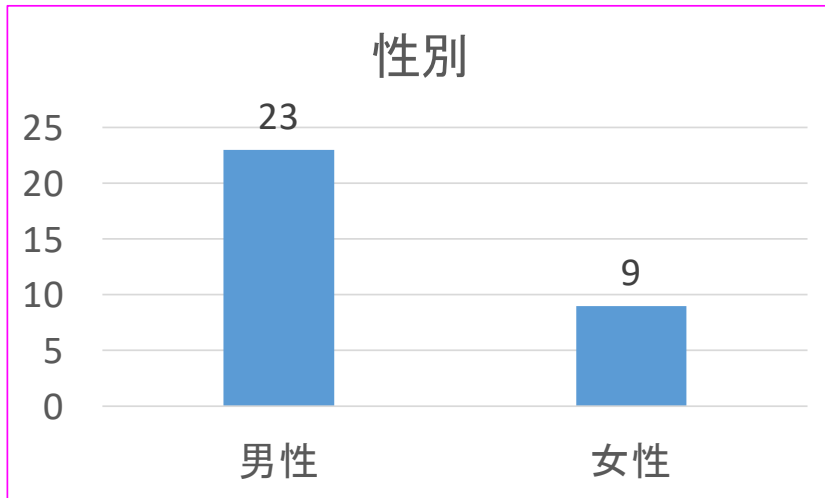
肺癌症例 60歳男性



## 胃がんX線検査(過去年度との比較)

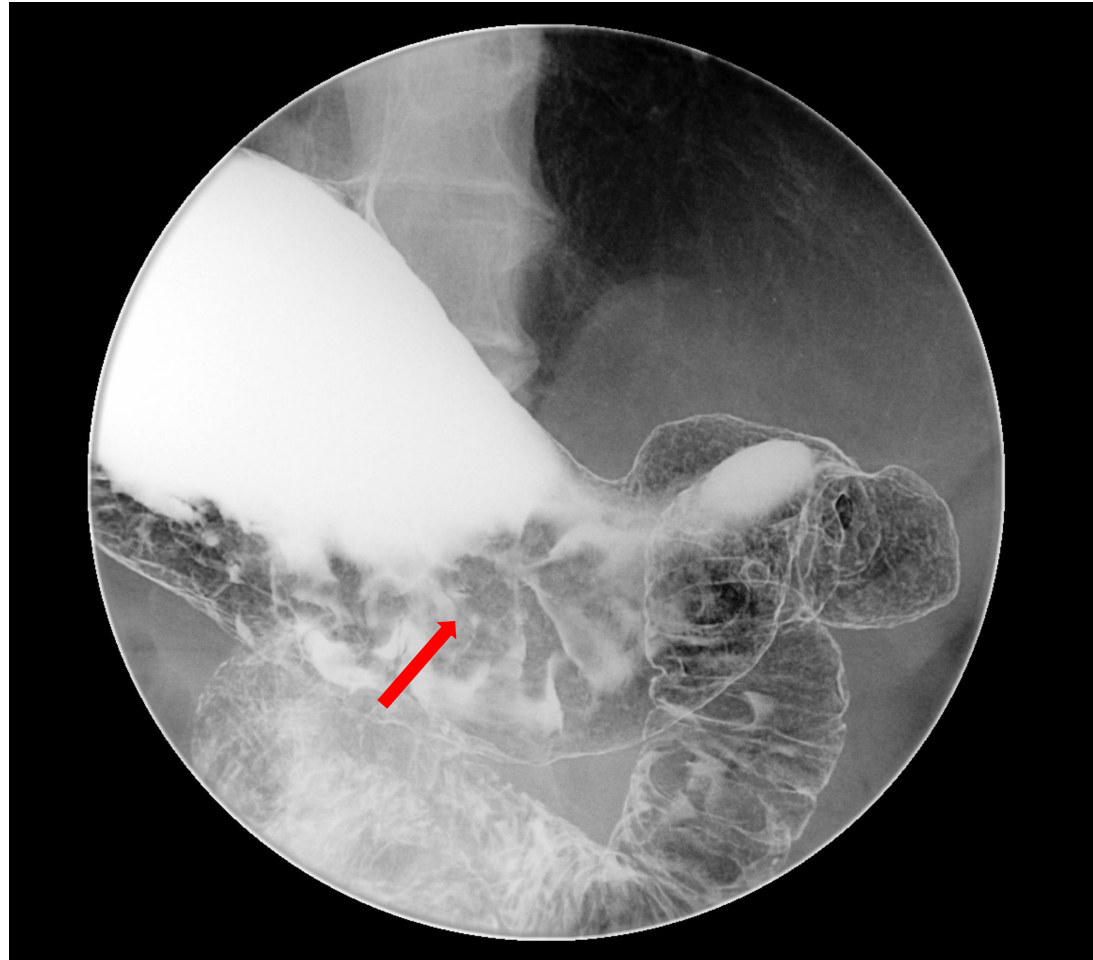
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
総数	35,543	41,127	38,058	36,868	43,203
要精検数	1,850	1,073	1,032	777	687
要精検率	5.2%	2.6%	2.7%	2.1%	1.6%
結果判明数	488	355	484	382	284
がん確定数	8	4	4	6	9
がん発見率	0.08%	0.03%	0.02%	0.03%	0.05%

# 胃がん 2015-2019年度データの解析

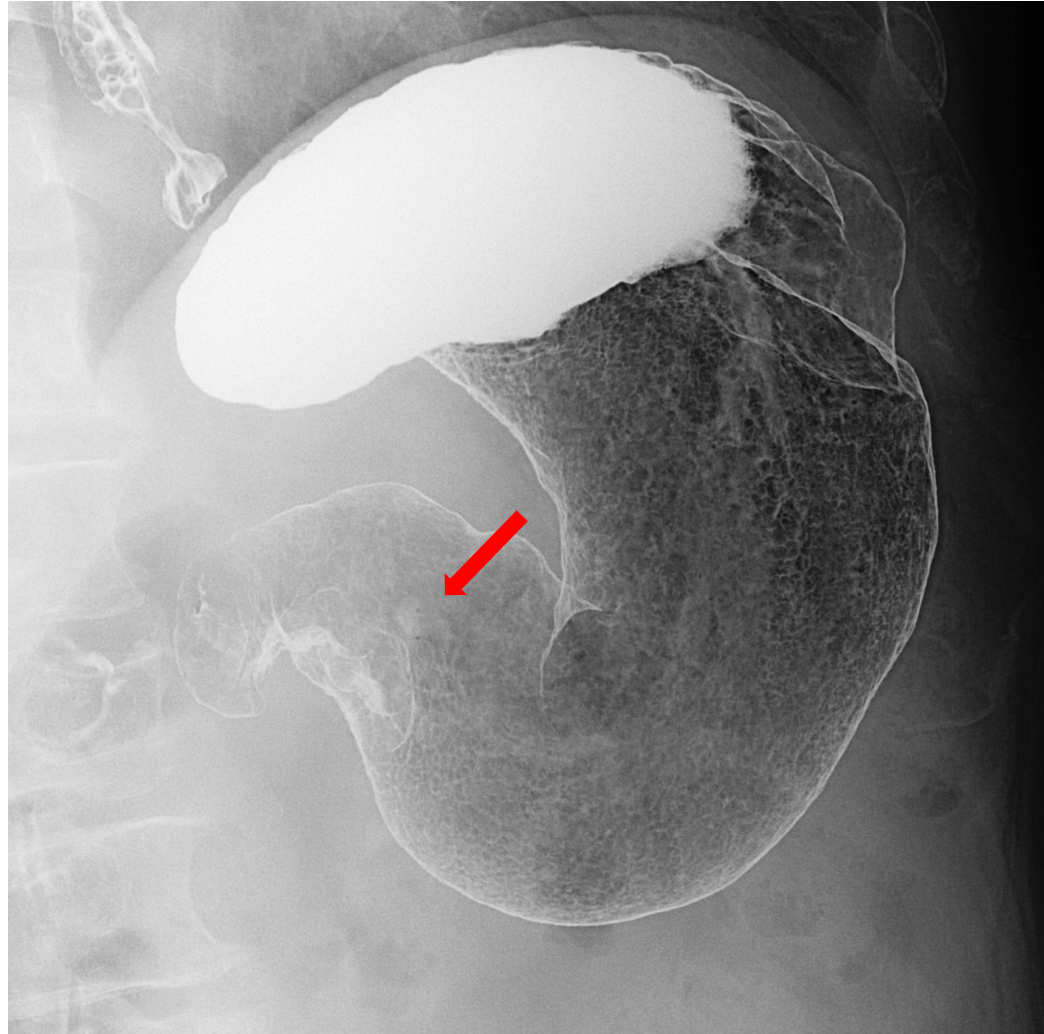


胃がんも男性に多く、**40歳代の胃癌**の方もいました。多くが早期癌で発見されていますが、3年間受診せず進行癌で発見された人もいます。

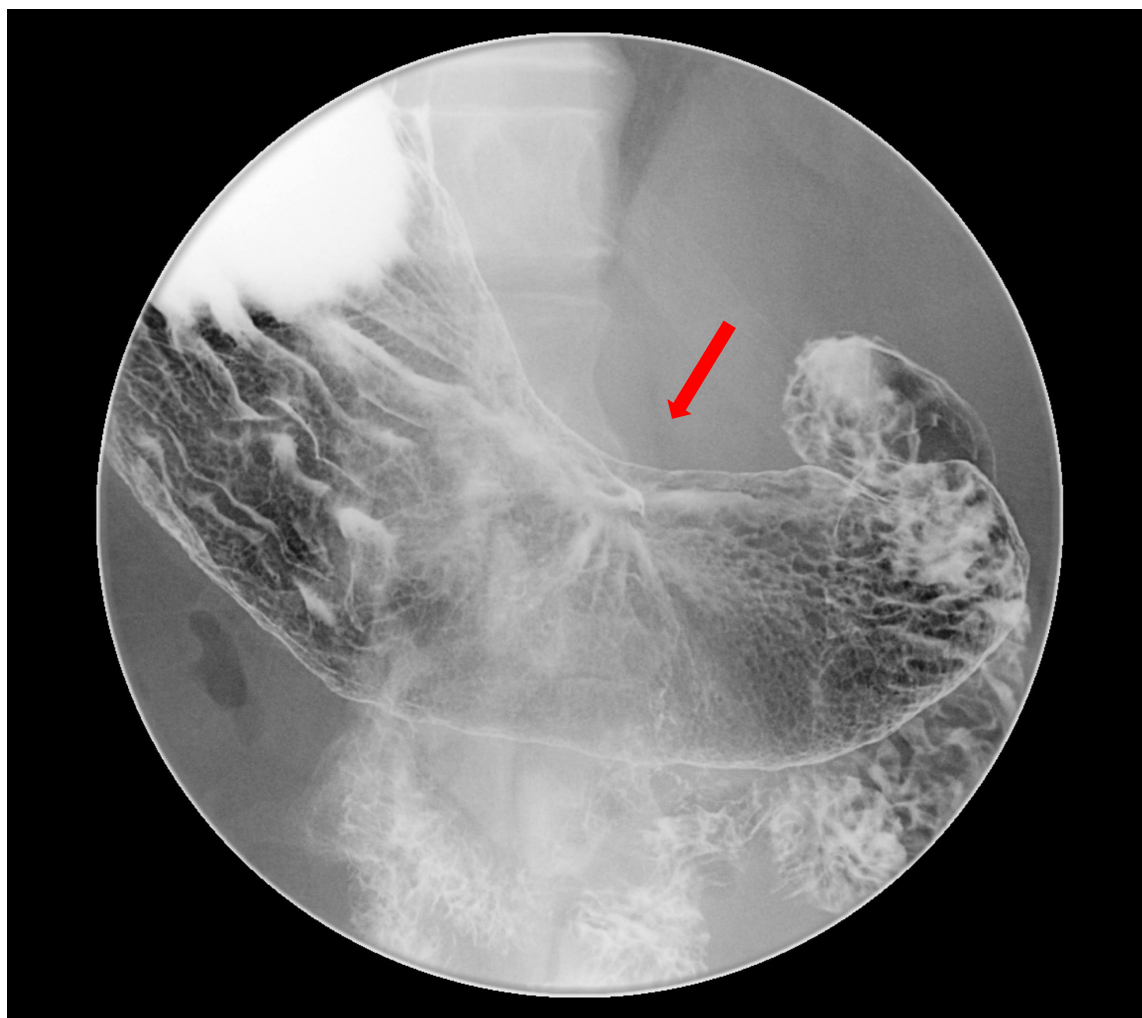
胃癌症例 82歳男性



胃癌症例 82歳男性



胃癌症例 52歳男性

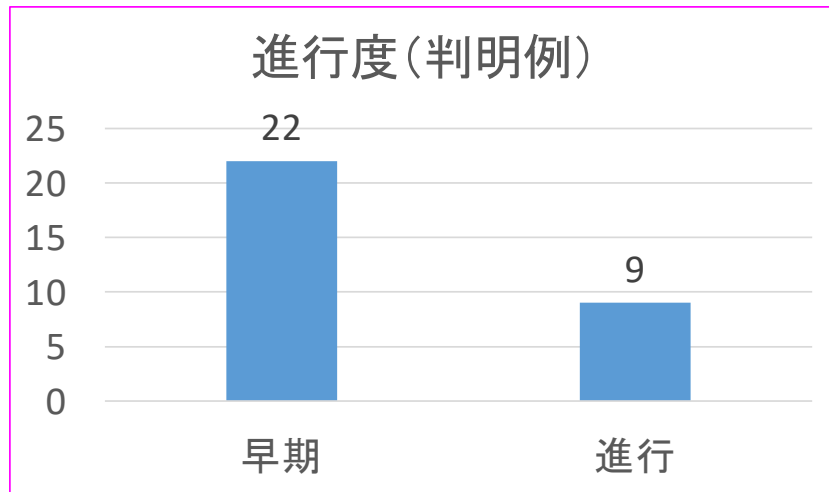
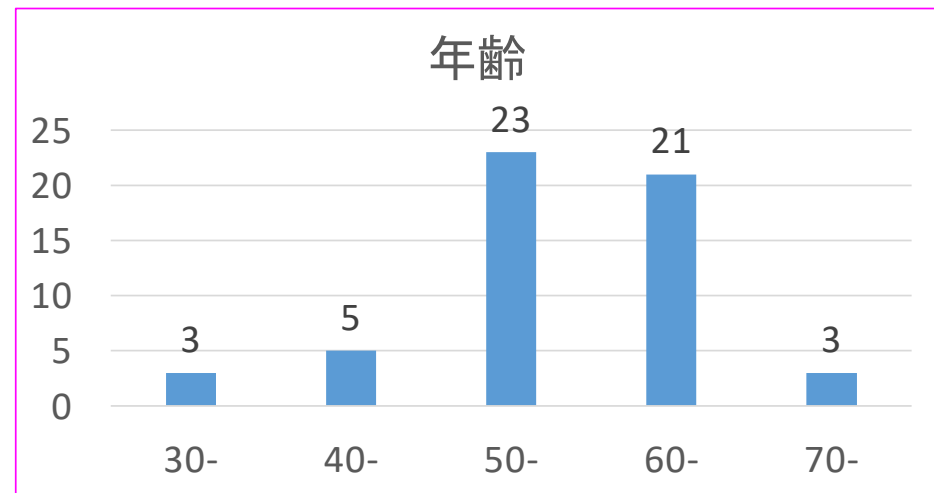
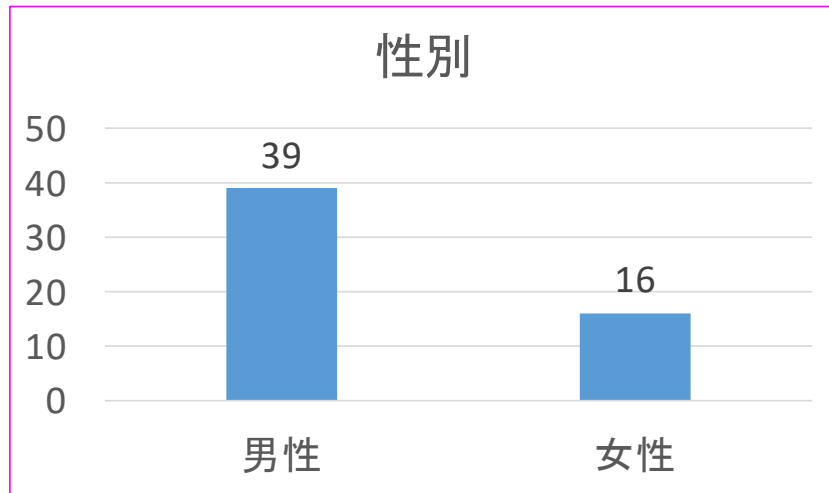


## 大腸がん便潜血検査(過去年度との比較)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
総数	44,132	49,920	51,226	56,367	60,805
要精検数	2,712	2,938	3,446	3,007	3,525
要精検率	6.1%	5.9%	6.7%	5.3%	5.8%
結果判明数	275	616	1,152	776	874
がん確定数	8	7	13	11	16
がん発見率	0.18%	0.07%	0.08%	0.08%	0.08%



# 大腸がん 2015-2019年度データの解析



大腸癌も男性に多く、**30歳代の大腸癌**の方もいました。多くが早期癌で発見されています。便潜血反応と関係なく5~10年に一回大腸内視鏡検査あるいは大腸CT検査を受けると、有意に生存率が向上するとされています。

## まとめ

- **要精密検査の約1~4%**の方に肺がん、胃がん、大腸がん、乳がんなどが発見されています。
- 検診で大半は早期癌で発見されています。
- 肺がん、大腸がんは30歳代また胃がんは40歳代にも発見されています。**40歳からがん検診は必ず受けましょう。**
- 精密検査を指摘されたのに放置している方が多数おられます。**必ず精密検査を受けて下さい！**
- 数年検診をスキップした間に進行癌になった方もおられます。がん検診は**毎年必ず受診**しましょう。

## お願い

- 早期で発見されたがんは治ります。また、職場復帰も容易です！
- がん検診は毎年受けて、要精密検査と判定されたら、必ず精密検査を受けて下さい！